

# 環境活動レポート

2007年度

2007年5月1日作成

株式会社T O O

## 株式会社 Too 環境活動レポート

### 環境方針

#### < 環境基本理念 >

Too は、お客様や地域社会との相互信頼のもと、さらに国や国際社会も見据え、「自然との共存」を図り、循環型社会の構築に寄与していくことを目指します。

#### < 環境基本方針 >

- (1). 環境問題を経営の重要課題のひとつとして位置づけ、環境保全に全員参加で取り組み、定期的に見直し、継続的な改善に努めます。
- (2). 環境関連法令を遵守し、環境保全の向上に努めます。
- (3). 営業活動において環境配慮型商品の推奨・販売に努めます。
- (4). 業務の効率化、不良在庫の削減を推進し、省エネ・省資源化を推進します。
- (5). 省エネルギー、省資源及び廃棄物の排出抑制・リサイクルに全員で取り組み、二酸化炭素の削減に努めます。
- (6). 経営陣、従業員に周知し、環境教育および啓発を行います。

2006年5月1日

株式会社 Too

代表取締役 石井 栄一

### 組織の概要

#### (1) 事業所名及び代表者氏名

事業所名	株式会社 Too 本社
	株式会社 Too CAT ビル
代表者	代表取締役 石井 栄一

- (2) 所在地 東京都世田谷区桜新町 1 丁目 34 番 25 号  
東京都渋谷区恵比寿西 2 丁目 3 番 16 号

## (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 執行役員 山崎 芳嗣

担当者 管理部総務課 橋本 俊一

連絡先 電話 03-5752-2810 FAX 03-5752-2811

E-mail s-hashimoto@too.co.jp

## (4) 事業活動の内容

コンピュータ、OA 機器、デザイン機器及び関連機材、消耗品に関する販売

## (5) 事業の規模

売上高 150 億円 (2006 年度)

対象事業所従業員 340 名

事務所延べ床面積 5820 m<sup>2</sup>

## 環境目標とその実績

## (1) 目標の達成状況

当社本社ビルでは下記の目標を掲げて環境活動に取り組んできました。

二酸化炭素排出量、廃棄物排出量、水使用量について 2008 年度までに 2005 年度の実績値から毎年 1% 低減させ、3 年間で 3% 低減させる。

		単位	2005 年度 実績	2006 年度 目標
総エネルギー投入量	購入電力	kWh	653,772	647,234
	化石燃料(ガソリン)	L	51,872	51,353
	<b>総エネルギー合計</b>	MJ	8,221,348	8,139,135
<b>温室効果ガス排出量</b>	<b>二酸化炭素</b>	Kg-CO <sub>2</sub>	467,447	462,773
<b>廃棄物等総排出量</b>	紙ごみ(コピー用紙)	t	23.3	23
	その他一般廃棄物	t	1.16	1
	産業廃棄物	t	61.35	61
	資源ごみ (カン、ビン、段ボール、エコボックス等)	t	73.1	72
	<b>廃棄物等総排出量合計</b>	t	158.9	157
<b>水使用量</b>	上 水	m <sup>3</sup>	1,763	1,745

当社本社ビルにおける過去3年にわたる実績は下記の通りです。

		単位	2004年度 実績	2005年度 実績	2006年度 実績
総エネルギー投入量	購入電力	kWh	661,626	653,772	617,297
	化石燃料(ガソリン)	L	68,278	51,872	43,817
	<b>総エネルギー合計</b>	MJ	8,866,188	8,221,348	7,584,084
<b>温室効果ガス排出量</b>	<b>二酸化炭素</b>	Kg-CO <sub>2</sub>	486,482	467,447	427,111
廃棄物等総排出量	紙ごみ(コピー用紙)	t	27.7	23.3	27.7
	その他一般廃棄物	t	2.5	1.16	1.39
	産業廃棄物	t	64.7	61.35	53.98
	資源ごみ (カン、ビン、段ボール、エコボックス等)	t	79.3	73.1	72.5
	<b>廃棄物等総排出量合計</b>	t	174.1	158.9	155.6
<b>水使用量</b>	上水	m <sup>3</sup>	1,734	1,763	1,756

- ・2006年度の二酸化炭素排出量は、前年比8.6%削減という結果になった。削減の理由として、日常的な省エネ活動を推進した結果、電力購入量を前年比5.6%低減させることができた。また、減車及び都内の事業所間での車輛移転のため、2006年度の桜新町ビルでの車輛使用台数が削減されたことと、エコドライブや都内の移動については極力公共交通機関を利用することを推進させた結果、化石燃料(ガソリン)使用量を前年比15.5%低減させることができた。
- ・2006年度の廃棄物排出量については、前年比2.1%削減という結果になった。削減の理由として、事業所内での廃棄予定だった機器類の整理を2005年度までに実施したことによって現状稼働している機器のみに整理され、結果として2006年度の全体の廃棄物削減につながったと考えられる。しかし、紙ごみ(コピー用紙)については前年比18.9%増加という結果になっているので、現状調査の上、紙の使用枚数の削減に関する啓蒙活動を推進させる必要がある。
- ・2006年度の水使用量については、現状把握と節水の呼びかけを行った結果、前年比0.4%削減という結果となった。日常的な節水活動により前年度より使用量を低減させることができたが、目標の1%削減は出来なかったので引き続き日常的な節水活動を徹底させる必要がある。

## (2) 今年度以降の目標

今年度以降の目標としては、当社CATビルにおいて2007年度からエコアクション21の取り組みを開始し、エコアクション21認証範囲の拡大に伴い、今までの桜新町本社のみの数値目標からCATビルを含めた全体での数値目標を再設定する。

数値目標：2006年度の本社ビルとCATビルの結果をまとめた実績値を基本として二酸化炭素排出量、廃棄物排出量、水使用量について2006年度の実績値から毎年1%低減させ、3年間で3%低減させる。

2006年の本社及びCATビル全体での実績値及び2007年度から2009年度までの目標値は下記の通りです。

		単位	2006年度 実績	2007年度 目標	2008年度 目標	2009年度 目標
総エネルギー投入量	総エネルギー合計	MJ	11,767,968	11,650,288	11,532,608	11,414,929
温室効果ガス排出量	二酸化炭素	Kg-CO <sub>2</sub>	664,482	657,837	651,193	644,548
廃棄物等総排出量	廃棄物等総排出量合計	t	195,291	193,338	191,385	189,432
水使用量	上水	m <sup>3</sup>	2,588	2,562	2,536	2,510

当社CATビルにおける2006年度の実績及び2007年2月～4月までのCATビルと全体（本社+CATビル）の目標と実績は下記の通りです。

		単位	CATビル			本社+CATビル	
			2006年度 実績	2007年度目標 (2～4月)	2007年度実績 (2～4月)	2007年度目標 (2～4月)	2007年度実績 (2～4月)
総エネルギー投入量	購入電力	kWh	359,971	89,993	81,261	241,874	216,555
	化石燃料(ガソリン)	L	18,652	4,663	2,667	15,461	11,677
	総エネルギー合計	MJ	4,183,884	1,045,971	891,750	2,912,572	2,533,425
温室効果ガス排出量	二酸化炭素	Kg-CO <sub>2</sub>	237,372	59,343	38,360	164,459	132,727
廃棄物等総排出量	紙ごみ(コピー用紙)	t	10.89	2.7	2.6	9.6	11.6
	その他一般廃棄物	t	0	0	0	0.34	1.26
	産業廃棄物	t	23.59	5.9	0.7	19.2	14.3
	資源ごみ (段ボール、エコボックス等)	t	5.18	1.3	1.45	19.2	21.75
	廃棄物等総排出量合計	t	39.7	9.9	4.78	48.33	48.98
水使用量	上水	m <sup>3</sup>	832	208	143	641	473

2007年度については2月から4月までの3ヶ月間における本社及びCATビル全体の実績について評価を実施する。

『2007年度目標(2~4月)』の数値は2007年度の全体目標値を4分割した数値とする。

- ・2007年度の二酸化炭素排出量は、目標対比19.3%削減という結果になった。削減の理由として、本社及びCATビルにおいて日常的な省エネ活動を推進した結果、電力購入量を目標対比10.5%低減させることができた。また、減車及びエコドライブや都内の移動については極力公共交通機関を利用することを推進させた結果、化石燃料(ガソリン)使用量を目標対比24.5%低減させることができた。
- ・2006年度の廃棄物排出量については、産業廃棄物が目標対比25.5%削減することができたが、資源ごみ(リサイクル)が目標対比13.3%増加していることと、紙ごみ(コピー用紙)排出量が目標対比20.8%増加していることで、全体としては目標対比1.3%増という結果となっている。紙ごみ(コピー用紙)排出量の増加については全体目標及び部門目標としても一部対応していることもあり、現状調査の上、紙の使用枚数の削減に関する啓蒙活動を推進させる必要がある。
- ・2006年度の水使用量については、現状把握と節水の呼びかけを行った結果、目標対比26.2%削減という結果となった。削減の理由としては日常的な節水活動が考えられるが、目標値が2006年度実績値を4分割した目標値設定ということで年度での集計をしてみないと判断がつかない。

### (3) 環境目標の担当部署及び責任者

責任者 執行役員 山崎 芳嗣

担当者 管理部総務課 橋本 俊一

#### 主要な環境活動計画の内容

本来業務の中で環境への取り組みを行う

- ・営業活動において省エネ・省資源型商品の販売、提案を行う
- ・業務の効率化を検討する
- ・不良在庫の削減を検討する

二酸化炭素排出の低減を行う

- ・本社ビル及びCATビルの各部署の照明スイッチ・エアコンスイッチに該当する場所のシールを貼り、不要な照明の電源オフを徹底させる
- ・本社ビルでは1階・2階共有スペースは原則PM6時に消灯し、エアコンの電源もオフにする

- ・ C A Tビルではトイレ使用後の照明消灯を徹底させる
- ・ 本社ビル及びC A Tビルで使用する空調の適温化(夏期 26 度 ~ 28 度、冬期 20 度)を徹底させる
- ・ 本社ビル及びC A Tビルで車両を使用する際は走行ルート of 合理化やエコドライブに配慮した運転を周知させる

#### 廃棄物の排出抑制を行う

- ・ 本社及びC A Tビルではミスプリントの削減や両面コピーの実施等、不要な紙出力を削減させる
- ・ 本社及びC A Tビルでは使用済み封筒の再利用を行う
- ・ 本社ビル及びC A Tビルのゴミの分別ルールを周知させ、徹底させる
- ・ 本社ビル及びC A Tビルでは業務上可能な限りエコボックス(文書リサイクル用のサービス)を利用する

#### 水使用量の低減を行う

- ・ 本社及びC A Tビルのトイレ及び給湯室には節水啓発用ステッカーを貼り、節水活動を推進させる
- ・ 本社及びC A Tビルの水道の止水栓を調節し、適正な水量に調整する

#### 環境活動の取り組み結果の評価

##### ( 1 ) 数値目標を達成するための取り組み

##### 本来業務中での環境への取り組み

本来業務での環境の取り組みについてはC A Tビルの各部門の取り組み設定が5月からということもあり、本社ビルの部門を中心として評価を実施する。

##### 営業活動において省エネ・省資源型商品の販売、提案を行う

営業部門で取り組みを行っている省エネ型商品の液晶モニターの販売提案については、営業活動に直結する内容であるため順調に数値目標以上の進捗ができていた。省資源型商品であるコピック商品の販売店舗拡大の取り組みについても目標通りの進捗ができていた。

##### 業務の効率化を検討する

業務の効率化の検討として取り組みを行っている情報の電子化については本社ビルでは経理関係の書類を中心として今まで紙出力していた内容を見直し、電子化で管理を行うように進捗できていた。

##### 不良在庫の削減を検討する

不良在庫の削減については当社内で鈍化している商品を中心として対策を行った。具体的には鈍化商品に関する情報を公開し、転売の促進を行った。結果として数値目標以上の進捗ができていた。

## 二酸化炭素排出量の低減（省エネに関する取り組み）

不要な電気の消灯に努める。（共有スペースの電気・空調）

本社ビルの会議室、ミーティングルーム等の共有スペース使用後の照明・エアコンの電源オフは徹底されている。本社ビル3階については独自の取り組みとして18時になった時点で3階フロアのエアコンの電源を一旦電源オフにし、より省エネ活動を推進させるようにしている。CATビルについてはトイレの照明消灯及び共有スペースでの照明、エアコンの電源オフは徹底されている。未使用時はパソコンの電源を落とし、離席時はモニターの電源を切る。本社及びCATビルにおける全部署で実施し、徹底されている。

### エコドライブの推進

営業部門においては荷物量が少ない場合の都内の移動については極力公共交通機関を利用することが徹底されている。その結果としてガソリンの使用量削減の効果が出てきている。また、CATビルについてはメンテナンス業務でバイクを利用していたところをハイブリッド自転車に切り替えて対応する等、独自の取り組みにより対策を実施している。

## 産業廃棄物排出量の低減

ゴミとして出される紙類、容器類の分別活動の実施を徹底した。

本社ビル及びCATビルの廃棄のルールについては徹底ができていた。特にエコボックスの利用を中心としてリサイクルに関する取り組みを推進させ、リサイクルされる廃棄物の量を増加させることができた。しかし、単純焼却の廃棄物も増加しているので引き続き廃棄物の低減に効果が上がるような取り組みを検討する必要がある。

不要な紙出力を削減し、コピー用紙の使用量を低減させる。

本社ビルではミスプリント、ミスコピー、余分な資料作成の削減に関する意識の徹底が不十分だった為、紙の廃棄物排出量が増加している。環境活動手順書の廃棄物削減手順の再徹底と会議資料の電子化等の取り組みを推進させていく必要がある。CATビルについては取り組みが3ヶ月間ということもあるが目標に向けて着実にコピー用紙の使用量の削減が出来ていた。

## 総排水量の低減

節水啓発用ステッカーを貼り、節水活動を推進させる

本社ビル及びCAT内の全てのトイレ、給湯室に啓蒙用ステッカーを貼り、節水活動を推進させている。使用量については削減できているが実際に節水を行って使用量が削減できたのかは判断ができない。

水道の止水栓を調節し、適正な水量に調整する

現状はトイレと給湯室の止水栓の現状調査のみで実施できていない。今後は節水活動の次のステップとして取り組みを行っていく必要がある。

## 環境法規への違反、訴訟等の有無

## ( 1 ) 適用となる主な環境関連法規

主な適用法規	該当する活動
産業廃棄物の処理及び清掃に関する法律	廃棄物の排出の際の適正処理
毒劇物取締り法	印刷用現像液の販売及び検証用使用
東京都環境確保条例	事業用自動車使用時のアイドリングストップ運動の遵守
東京都廃棄物条例	産業廃棄物の減量及び適正処理、産業廃棄物管理責任者の選任
容器包装リサイクル法	紙及びプラスチック製容器包装の再商品化

## ( 2 ) 違反、訴訟等

法的要求事項一覧・チェック表を元に当社内で確認した結果、違反は1件もなかった。違反については関係機関から特に指摘はなく、また訴訟等も1件もなかった。

以 上